科目名: 保健体育5a		英文名: Health and physical education 5a	
担当者: 亀井俊彦、池田健朗、辻本修			
工学科: 総合システム	学年: 5	コース: 全	開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 集団行動Ⅰ 第 2週 集団行動Ⅱ 第 3週 球技・基礎体力の向上(ソフトボールⅠ) 第 4週 球技・基礎体力の向上(ソフトボールⅡ) 第 5週 体育理論保健 3-1-1健康の概念 3-1-2健康と運動 第 6週 球技・基礎体力の向上(ソフトボールⅢ) 第 7週 球技・基礎体力の向上(ソフトボールⅣ) 第 8週 球技・基礎体力の向上(バスケットボールⅠ) 第 9週 球技・基礎体力の向上(バスケットボールⅡ) 第10週 体育理論・保健 3-1-3食事と健康 3-1-4健康と休養 第11週 球技・基礎体力の向上(バスケットボールⅢ) 第12週 球技・基礎体力の向上(バスケットボールⅣ) 第13週 試験・新体力テスト 第14週 期末試験(筆記) 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理す為の基本知識を養う事を目標とします。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することにより、 1.(D-G2)集団行動を通じて協調性を養う。 2.(D-G2)多種多様なスポーツの基本的ルールを学び、参加する楽しさを覚える。 ことができるようになります。 ■教科書 「保健体育概論(増補版)」近畿地区高等専門学校体育研究会編 「最新スポーツルール」大修館」 ■参考文献 なし ■関連科目 保健・健康科学 ■成績評価基準 種類: 定期試験(1回) 方式: 記述式 体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方から評価する。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(40%)と授業への積極性及び課題評価(40%)と前期に行なう定期考査(20%)によって 総合的に評価します。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」 不可」 ■教員所在場所 池田健朗、亀井俊彦、辻本修:3号館1階、体育教員室 ■授業評価アンケート実施 9月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス ikeda@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日午前中。水曜日2時間目以降、金曜日2時間目以降

科目名: 保健体育5b		英文名: Health and physical education 5b	
担当者: 亀井俊彦、池田健朗、辻本修			
工学科: 総合システム	学年: 5	コース: 全	開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第1週 体育理論・保健 3-2-1身体的要因による精神の変化 3-2-2欲求と適用 第2週 球技・基礎体力の向上(バレーボールⅠ) 第3週 球技・基礎体力の向上(バレーボールⅡ) 第4週 球技・基礎体力の向上(バレーボールⅢ) 第5週 球技・基礎体力の向上(バレーボールⅣ) 第6週 体育理論・保健 3-2-3思春期と性 3-3-1疾病の経過と予防 第7週 陸上競技・マラソン 第8週 陸上競技・マラソン 第9週 陸上競技・マラソン 第10週 陸上競技・マラソン 第11週 体育理論・保健 3-3-2感染病の経過と予防 3-4-1大脳、新皮質の働き 第12週 陸上競技・マラソン計測 第13週 試験 新体力テスト 第14週 期末試験(筆記) 第15週 試験返却	■授業概要・方法等 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理す為の基本知識を養う事を目標とします。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することにより、 1.(D-G2)集団行動を通じて協調性を養う。 2.(D-G2)多種多様なスポーツの基本的ルールを学び、参加する楽しさを覚える。 ことができるようになります。 ■教科書 「保健体育概論(増補版)」近畿地区高等専門学校体育研究会編 「最新スポーツルール」大修館」 ■参考文献 なし ■関連科目 保健・健康科学 ■成績評価基準 種類: 定期試験(1回) 方式: 記述式 体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方から評価する。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(40%)と授業への積極性及び課題評価(40%)と後期に行なう定期考査(20%)によって 総合的に評価します。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」 不可」 ■教員所在場所 池田健朗、亀井俊彦、辻本修:3号館1階、体育教員室 ■授業評価アンケート実施 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス ikeda@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日午前中。水曜日2時間目以降、金曜日2時間目以降

科目名： 解析学4a		英文名： Analysis Ⅰa	
担当者： 伊藤 豊治			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 前期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス・微分方程式とは？） 第 2週 微分方程式 1階微分方程式（微分方程式の意味とその解） 第 3週 微分方程式 1階微分方程式（変数分離形1） 第 4週 微分方程式 1階微分方程式（変数分離形2） 第 5週 微分方程式 1階微分方程式（同次形） 第 6週 微分方程式 1階線形微分方程式（1階線形微分方程式1） 第 7週 微分方程式 1階微分方程式（1階線形微分方程式2） 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答 微分方程式 2階微分方程式（線形微分方程式） 第10週 微分方程式 2階微分方程式（定数係数斉次線形微分方程式） 第11週 微分方程式 2階微分方程式（定数係数非斉次線形微分方程式） 第12週 微分方程式 2階微分方程式（いろいろな線形微分方程式） 第13週 微分方程式 2階微分方程式（線形でない2階微分方程式） 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 微分積分学のうちで、必修科目の「数学」や「応用数学」で扱えなかった単元を修得します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.（A-G1)微分方程式とはどのようなものかを理解できる。 2.（A-G1)基本的なタイプの微分方程式を解くことができる。 ようになるようになります。 ■教科書 新訂 微分積分Ⅱ（大日本図書） ■関連科目 微分積分学Ⅰ・Ⅱ、応用数学 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験（2回），方式： 記述式 定期考査成績：定期試験(90%)、課題（10%）として評価します。 最終成績：2回の定期考査成績の平均とします。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■教員所在場所 本館2階企画広報室 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します ■メールアドレス titoh@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 平日12時15分から13時

科目名： 解析学4b		英文名： Analysis Ⅰb	
担当者： 伊藤 豊治			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 後期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ラプラス変換の定義と例1 第 2週 ラプラス変換の定義と例2 第 3週 基本的性質1 第 4週 基本的性質2 第 5週 ラプラス変換の演習1 第 6週 ラプラス変換の演習2 第 7週 ラプラス変換の表の作成 第 8週 逆ラプラス変換 第 9週 逆ラプラス変換の演習 第10週 微分方程式への応用1 第11週 微分方程式への応用2 第12週 たたみこみ 第13週 線形システムの伝達関数とデルタ関数 第14週 後期期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 微分積分学のうちで、必修科目の「数学」や「応用数学」で扱えなかった単元を修得します。 ■到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.（A-G1)ラプラス変換とはどのようなものかを理解する。 2.（A-G1)基本的なタイプのラプラス変換、逆ラプラス変換を求めることができる。 3.（A-G1)ラプラス変換を微分方程式を解く事に利用できる。 ようになります。 ■教科書 新訂 応用数学（大日本図書） ■関連科目 微分積分学Ⅰ・Ⅱ、応用数学 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験（1回），方式： 記述式 定期考査成績：定期試験(90%)、課題（10%）として評価します。 最終成績：定期考査成績に準じます。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■教員所在場所 本館2階企画広報室 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します ■メールアドレス titoh@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 平日12時15分から13時

科目名： 解析学5a		英文名： Analysis5a	
担当者： 伊藤豊治			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 前期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス 空間ベクトルの復習 第 2週 外積 第 3週 ベクトル関数 第 4週 曲線1 第 5週 曲線2曲面 第 6週 曲面1 第 7週 曲面2 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答 第10週 勾配 第11週 発散と回転1 第12週 発散と回転2 第13週 スカラー場とベクトル場の復習と演習 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 微分積分学のうちで、必修科目の「数学」や「応用数学」で扱い切れない単元を修得します。 ■到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.（A-G1）ベクトル関数、スカラー場、勾配、発散と回転の基本的考えを理解し、具体的な計算をする ことができるようになります。 ■教科書 新訂 応用数学（大日本図書） ■参考文献 なし ■関連科目 微分積分学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学、応用数学 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験(2回)，方式： 記述式 定期考査成績：定期試験(80%)、課題(20%)として評価します。 最終成績：定期考査成績の平均とします。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■教員所在場所 本館2階企画広報室 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス titoh@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 平日12時15分から13時

科目名： 解析学5b		英文名： Analysis Ⅱb	
担当者： 伊藤豊治			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 後期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ベクトルの積分1 第 2週 ベクトルの積分2 第 3週 線積分1 第 4週 線積分2 第 5週 グリーンの定理1 第 6週 グリーンの定理2 第 7週 面積分1 第 8週 面積分2 第 9週 発散定理1 第10週 発散定理2 第11週 ストークスの定理1 第12週 ストークスの定理2 第13週 線積分・面積分の復習と演習 第14週 期末試験 第15週 試験返し	■授業概要・方法等 微分積分学のうちで、必修科目の「数学」や「応用数学」で扱い切れない単元を修得します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.（A-G1）ベクトルの積分、線積分、面積分の基本的な考えを理解し、具体的な計算をする ことができるようになります。 ■教科書 新訂 応用数学（大日本図書） ■参考文献 なし ■関連科目 微分積分学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学、応用数学 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験(1回)，方式： 記述式 定期考査成績：定期試験(80%)、課題(20%)として評価します。 最終成績：定期考査成績に準じます。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■教員所在場所 本館2階企画広報室 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス titoh@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 平日12時15分から13時

科目名： 法学a		英文名： Jurisprudence a	
担当者： 重村博美			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 前期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 憲法とは何か(1) 第 2週 憲法とは何か(2) 第 3週 違憲立法審査制度(1) 第 4週 違憲立法審査制度(2) 第 5週 統治機構総論(1) 第 6週 統治機構総論(2) 第 7週 基本的人権総論(1) 第 8週 基本的人権総論(2) 第 9週 幸福追求権(1) 第10週 幸福追求権(2) 第11週 信教の自由・政教分離原則(1) 第12週 信教の自由・政教分離原則(2) 第13週 表現の自由(1) 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法など 本授業では、法律の中でもわが国の最高法規である日本国憲法を中心に学びます。日本国憲法は、私たち一人ひとりの生活を守る仕組みを形作るものです。しかし、そのあり方については多くの議論があります。本授業では、日本国憲法の諸問題を具体的事例のなかから見ていくこととしますが、憲法をより身近なものとして捉えられるように、近時の話題にも触れ、説明をしていきます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者はこの授業を履修することによって、 1. (D-G1)憲法の全体像について把握する。 2. (D-G1)憲法の果す役割について理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 『判例で学ぶ日本国憲法』西村裕三編(有信堂高文社) ■参考文献 なし ■関連科目 なし ■成績評価方法および基準 種類:定期試験(1回), 方法:記述式 定期考査成績:レポート提出(100%)で評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 80点以上「優」, 70点以上80点未満「良」, 60点以上70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■教員所在場所 本館2階 入試部2 ■授業アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス shigemura@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日と火曜日の12時15分～12時55分

科目名： 法学b		英文名： Jurisprudence b	
担当者： 重村博美			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 後期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 表現の自由(2) 第 2週 学問の自由・教育を受ける権利(1) 第 3週 学問の自由・教育を受ける権利(2) 第 4週 人身の自由(1) 第 5週 人身の自由(2) 第 6週 裁判を受ける権利(1) 第 7週 裁判を受ける権利(2) 第 8週 参政権(1) 第 9週 参政権(2) 第10週 生存権(1) 第11週 生存権(2) 第12週 労働基本権(1) 第13週 労働基本権(2) 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業内容・方法など 本授業では、法学aで学習したことを踏まえ、引き続き日本国憲法の諸問題を学説・判例等から学んでいくこととします。それとともに、新聞等で取り上げられている憲法問題についても適時とりあげ、検討を加えていくこととします。そのため受講生の皆さんには、日々新聞に目を通し、問題意識を常に持ってもらうことを期待しています。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者はこの授業を履修することによって、 1. (D-G1)憲法に関する様々な問題に興味をもつ。 2. (D-G1)憲法に関する様々な問題に自分自身の意見を述べる。 ことができるようになります。 ■教科書 『判例で学ぶ日本国憲法』西村裕三編(有信堂高文社) ■参考文献 なし ■関連科目 なし ■成績評価方法および基準 種類:定期試験(1回), 方式:記述式 定期考査成績:レポート提出(100%)で評価します。 最終成績:定期考査成績(100%)とします。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■教員所在場所 本館2階 入試部2 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス shigemura@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日と火曜日の12時15分～12時55分

科目名: 英語特講 a		英文名: English for International Communication a	
担当者: オルダネス・ジェームズ (James Olderness)			
工学科: 総合システム	学年: 5	コース: 全	開講期: 前期
科目種別: 選択	単位数: 1		

授業計図	授業概要
第1週　Let's Begin!: Class/teacher introduction; Classroom English 第2週　Who are you?: Student written introductions 第3週　Who are you?: Student spoken introductions 第4週　Listen and be heard: Pronunciation and Fluency 第5週　Listen and be heard: Throw out Katakana English 第6週　Listen and be heard: Reading for Fluency; Audience Skills 第7週　Get Excited!: Voice Inflection Techniques & Practice 第8週　前期中間試験 第9週　答案返却・解答 Get Excited!: Storytelling practice 第10週　Get Excited!: Tell a story (fluency & inflection check) 第11週　Show and Tell: Start simple, make it longer (skill building) 第12週　Show and Tell: Show and tell writing 第13週　Show and Tell: Show and tell Presentations 第14週　前期期末試験 第15週　答案返却・解答	■授業概要・方法等 小グループによる実践的かつ自発的な英会話を通して、国際コミュニケーションのための英語を習得します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (D-G1) 英語の学習を通して、異文化に対する理解を深める。 2. (E-G2) 英語のスピーキング能力を向上させる。 3. (E-G2) 英語のリスニング能力を向上させる。 ことができるようになります。 ■教科書　Handouts and worksheets created by teacher (教員が作った作業) ■参考文献　英和辞書と和英辞書、又は電子辞書。 ■関連科目　英語1、英語2、英語3、英語4、TOEICプラス、外国語文献購読 ■成績評価方法および基準 種類:筆記試験およびスピーチ:定期試験 40% (2回)・スピーチ, ノート, 作業プリント60% 定期考査成績:定期試験 40% (2回)・スピーチ, ノート, 作業プリント60% スピーチ:自信をもって英会話(リスニング・スピーキング)を実践する能力を評価します。 最終成績:定期考査成績の平均とします。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■教員所在場所　本館4階　国際交流部 ■授業評価アンケート実施方法　10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス　james@ktc.ac.jp ■オフィスアワー　月曜日と水曜日の12時15分～12時55分

科目名: 英語特講 b		英文名: English for International Communication b	
担当者: オルダネス・ジェームズ (James Olderness)			
工学科: 総合システム	学年: 5	コース: 全	開講期: 後期
科目種別: 選択	単位数: 1		

授業計図	授業概要
第1週　Question Words and Grammar 第2週　Question Writing Skills 第3週　Answering Techniques; Gestures when speaking 第4週　Question Game Activity; Classroom English review 第5週　Get Excited Review: Review intonation; storytelling 第6週　Tell me a Story: Storytelling to the class 第7週　Interview (guided): Question writing 第8週　Interview (guided) : Answer writing 第9週　Speaking Practice for Interviews 第10週　Presentation of Guided Interview 第11週　Interview (free): Study interview questions 第12週　Interview (free): Practice interview answers 第13週　In the News!: TV Newscaster/Guest format 第14週　後期期末試験 第15週　答案返却・解答	■授業概要・方法等 小グループによる実践的かつ自発的な英会話を通して、国際コミュニケーションのための英語を習得します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (D-G1)(E-G2) 英語の使用を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 2. (E-G2) 英語の使用を通して、プレゼンテーション能力を向上させる。 ことができるようになります。 ■教科書　Handouts and worksheets created by teacher (教員が作った作業) ■参考文献　英和辞書と和英辞書、又は電子辞書。 ■関連科目　英語1、英語2、英語3、英語4、TOEICプラス、外国語文献購読 ■成績評価方法および基準 種類:筆記試験およびスピーチ:定期試験 40%・スピーチ, ノート, 作業プリント60% 定期考査成績:定期試験 40%・スピーチ, ノート, 作業プリント60% スピーチ:自信をもって英会話(リスニング・スピーキング)を実践する能力を評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■教員所在場所　本館4階　国際交流部 ■授業評価アンケート実施方法　2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス　james@ktc.ac.jp ■オフィスアワー　月曜日と水曜日の12時15分～12時55分

科目名： TOEICプラスa		英文名： TOEIC Plus a	
担当者： オルダネス・ジェームズ（James Olderness）			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 前期
科目種別： 選択	単位数： 1.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
● Chapter 2 （Listening Comprehension） 第 1週 Classroom English / Mini TOEIC Bridge® test 第 2週 Part 1 Vocabulary Building Activities 第 3週 Part 1 Vocabulary Building Activities 第 4週 Part 1 Photographs – skill building 第 5週 Part 1 Photographs – skill building 第 6週 Part 1 Photographs – skill building 第 7週 Mid-Term TEST 第 8週 Part 2 Question-Response – vocabulary building 第 9週 Part 2 Question-Response – skill building 第10週 Part 3 Question-Response – skill building 第11週 Part 3 Short Conversations & Talks – vocabulary building 第12週 Part 3 Short Conversations & Talks – skill building 第13週 Part 3 Short Conversations & Talks – skill building 第14週 TOEIC Bridge® Model Test 1 第15週 Model Test Return & Answer Explanation	■授業概要・方法等 TOEIC Bridge®は、TOEIC®よりも「易しくて」「試験時間の短い」初学者向けの語学試験です。 学習者が問題演習を通じてTOEIC Bridge®テストの形式に慣れ、英語の基礎力を固めます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)日常的な基本単語を習得する。 2. (E-G2)短い英会話文を聞いて、その内容を理解する。 ことができるようになります。この授業は、TOEIC Bridge®テストのターゲットスコア160点（TOEIC®スコア約570点・TOEFL®スコア約500点）が目標です。 ■教科書 Lin Lougheed『Barron's TOEIC Bridge® TEST』 ■参考文献 なし ■関連科目 英語1、英語2、英語3、英語4、英語特講、外国語文献購読 ■成績評価方法および基準 種類：定期試験（1回）、方式：選択式 定期考査成績：定期試験(100%)の成績によって評価します。 最終成績：定期試験成績とします。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■教員所在場所 本館4階・国際交流部 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス james@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日と水曜日の12時15分～12時55分

科目名： TOEICプラスb		英文名： TOEIC Plus b	
担当者： オルダネス・ジェームズ（James Olderness）			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 後期
科目種別： 選択	単位数： 1.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
● Chapter 3 （Reading） 第 1週 Part 4 Vocabulary Building Activities 第 2週 Part 4 Vocabulary Building Activities 第 3週 Part 4 Incomplete Sentences – skill building 第 4週 Part 4 Incomplete Sentences – skill building 第 5週 Part 4 Incomplete Sentences – skill building 第 6週 Part 4 Incomplete Sentences – skill building 第 7週 Part 4 Incomplete Sentences – skill building 第 8週 Part 4 Incomplete Sentences – skill building 第 9週 Part 4 Incomplete Sentences – skill building 第10週 Part 5 Reading Comprehension – vocabulary building 第11週 Part 5 Reading Comprehension – skill building 第12週 Part 5 Reading Comprehension – skill building 第13週 Part 5 Reading Comprehension – skill building 第14週 TOEIC Bridge® Model Test 2 第15週 Model Test Return & Answer Explanation	■授業概要・方法等 TOEIC Bridge®は、TOEIC®よりも「易しくて」「試験時間の短い」初学者向けの語学試験です。 学習者が問題演習を通じてTOEIC Bridge®テストの形式に慣れ、英語の基礎力を固めます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)簡単な英文を、正しい文法で表現する。 2. (E-G2)日常的な内容の英文を読んで、その内容を理解する。 ことができるようになります。 この授業は、TOEIC Bridge®テストのターゲットスコア160点（TOEIC®スコア約570点・TOEFL®スコア約500点）が目標です。 ■教科書 Lin Lougheed『Barron's TOEIC Bridge® TEST』 ■参考文献 なし ■関連科目 英語1、英語2、英語3、英語4、英語特講、外国語文献購読 ■成績評価方法および基準 種類：定期試験（1回）、方式：選択式 定期考査成績：定期試験(100%)の成績によって評価します。 最終成績：定期試験成績とします。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■教員所在場所 本館4階・国際交流部 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス james@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日と水曜日の12時15分～12時55分

科目名： 外国文献講読a		英文名： English Reading a	
担当者： 竹内春樹			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 前期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 Lesson 1 Why do people have Eyelashes? 第 2週 Lesson 1 Why do people have Eyelashes? 第 3週 Lesson 2 Why does pepper make you sneeze? 第 4週 Lesson 2 Why does pepper make you sneeze? 第 5週 Lesson 3 Why do we fall in love? 第 6週 Lesson 3 Why do we fall in love? 第 7週 Lesson 4 Why can't we cure a cold? 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答 第10週 Lesson 4 Why can't we cure a cold? 第11週 Lesson 5 Why is the number 7 lucky? 第12週 Lesson 5 Why is the number 7 lucky? 第13週 Lesson 6 Why does our hair turn gray? 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 基礎的科学英語の文章について、語彙学習、構文学習、リスニング活動を行い、理解能力の改善を図ります。必要に応じて、他の科学英語教材を配布することがあります。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)科学英語への関心を高める。 2. (E-G2)科学英語の基礎的単語を知る。 3. (E-G2)科学英語の基礎的構文を学ぶ。 ことができるようになります。 ■教科書 Asking Why? （金星堂） ■参考文献 なし ■関連科目 本科1年から4年英語 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験（2回）、方式： 記述式 定期考査成績：定期試験(80%)、課題(20%)で評価します。 最終成績：定期考査成績の平均とします。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■教員所在場所 2号館2階 共通教育科教員室 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス takeuchi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 木曜日の7限と8限

科目名： 外国文献講読b		英文名： English Reading b	
担当者： 竹内春樹			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 後期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 Lesson 7 Why is the sea salty? 第 2週 Lesson 7 Why is the sea salty? 第 3週 Lesson 8 Why do women live longer than men? 第 4週 Lesson 8 Why do women live longer than men? 第 5週 Lesson 9 Why do some species become extinct? 第 6週 Lesson 9 Why do some species become extinct? 第 7週 Lesson 10 Why are tojmatoes a kind of fruit? 第 8週 Lesson 10 Why are tojmatoes a kind of fruit? 第 9週 Lesson 11 Why does the wind blow? 第10週 Lesson 11 Why does the wind blow? 第11週 Lesson 12 Why are spider webs so strong? 第12週 Lesson 12 Why are spider webs so strong? 第13週 Lesson 12 Why are spider webs so strong? 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 科学英語の語彙を増やし、構文の知識も拡充し、英語を読むことに興味を持たせます。またリスニング学習を行い、英語の聞き取り能力の改善を図ります。必要に応じて、他の科学英語教材を配布することがあります。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)科学英語に興味を持つ。 2. (E-G2)科学英語の基礎的語彙力を高める。 3. (E-G2)科学英語の基礎的構文に精通する。 4. (E-G2)科学英語の基礎的リスニングになれる。 ことができるようになります。 ■教科書 Asking Why? （金星堂） ■参考文献 なし ■関連科目 本科1年から4年英語 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験（1回）、方式： 記述 定期考査成績：定期試験(80%)、課題(20%)で評価します。 最終成績：定期考査成績の平均とします。」 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■教員所在場所 2号館2階 共通教育科教員室 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス takeuchi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 木曜日の7限と8限

科目名： 中国語 初級 a		英文名： Chinese（beginner‘s class）a	
担当者： 酒井宗和			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 前期
科目種別： 選択	単位数： 0．5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス（中国語の特徴と概要及び授業の進め方） 第 2週 挨拶語を覚える中で発音（声調＝高低アクセント）を覚える 第 3週 挨拶語を覚える中で発音と発音符号（母音1）を覚える 第 4週 挨拶語を覚える中で発音と発音符号（母音2）を覚える 第 5週 挨拶語を覚える中で発音と発音符号（母音3）を覚える 第 6週 挨拶語を覚える中で発音と発音符号（母音4）を覚える 第 7週 挨拶語を覚える中で発音と発音符号（子音1）を覚える 第 8週 中間試験（含ヒアリングテスト） 第 9週 スピーキングテストと答案返却・解説 第10週 挨拶語を覚える中で発音・発音符号（子音2）を覚える 第11週 挨拶語を覚える中で発音・発音符号（子音3）を修得する 第12週 挨拶語を覚える中で発音・発音符号・アクセントを修得する 第13週 各自の名前を中国語で言い、その発音符号を書けるようにする 第14週 期末試験（ヒアリングテストを含む） 第15週 スピーキングテストと答案返却・解説	■授業概要 各種の挨拶言葉を教師の口真似で十回ほど繰り返し、一方、出てきた各音節につき、音声学的解説を加え、意識的記憶と意図的練習ができるように認識付けします。 ■到達目標 1．(E-G2) 中国語の背景となる中国の歴史や文化・自然条件や風俗・習慣、発想・価値観を知り、自国との対比において理解し、自然との調和を考慮した視点で物事を考えるきっかけにすることができるようになります。 2．(E-G2) 言語学、音韻学、考古学的に中国語を理解し、中国語の基礎学力を身に付けます。 具体的には、前期に於いて、各種の挨拶言葉を耳で覚え、同時に「発音符号」を知り、聞き、話し、読み、書くことを、基本的に修得させます。 ■授業の進め方 各種の挨拶言葉をプリントにし、教師の口真似で十回ほど繰り返し、音（言葉）として記憶すると同時に、「発音符号」を読みこなし、字引きを利用できる力を付け、 意識的記憶と自習ができるようにします。 ■教科書 プリントを作成、配布します。また夏季休暇には課題プリントを課します。 ■参考書 中国語音節表を配布します。 ■関連科目 特にありません。 ■試験方法 種類： 定期試験（2回） 方式： 記述式50点、スピーキング20点、ヒアリング20点。 夏季課題（プリント）20点。 ■成績評価基準 定期考査成績： ①記述テスト＝挨拶言葉の翻訳と発音符号の表記力 ②母音、子音、アクセントの聞き分け力 ③挨拶言葉のスピーク、母音・子音・アクセントの発音力 定期試験及び夏季課題の合計を2で割ったものを定期考査点とします。欠席した場合、3回を限度として、一回当たり5点を定期考査点より減点します。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■授業アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■教員所在場所 本館4階 国際交流部 ■メールアドレス sakai@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 土曜第4限

科目名： 中国語 初級 b		英文名： Chinese （beginner‘s ciass）b	
担当者： 酒井宗和			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 後期
科目種別： 選択	単位数： 0．5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週～7週 各種の挨拶語を覚え、発音とその符号を修得し、関連の中国式「漢字」を覚える。 第 8週 確認試験（ヒアリングテストを含む） 第 9週 スピーキングテスト、答案返却・解答 第10週～13週 数字の言い方と各種の、数字による表現を学ぶ 第14週 期末試験（ヒアリングテストを含む） 第15週 スピーキングテスト、答案返却・解説	■授業概要 色々な中国語数字の数え方、数字の各種の使われ方、及びその表現、 数字を用いた中国の成語、携帯用語などを学びます。 ■到達目標 1．(E-G2) 中国語の背景となる中国の歴史や文化・自然条件や風俗・習慣、発想・価 値観を知り、自国との対比において理解し、自然との調和を考慮した視点で物事を考えるきっかけにすることがができるようになります。 2．(E-G2) 言語学、音韻学、考古学的に中国語を理解し、中国語の「漢字」を覚え始めます。 具体的には、後期に於いて、日常生活の基礎用語の一つである数字とその各種の使い方を覚え、同時に「発音符号」に熟達させ、一方、中国式「漢字」を覚え始めさせ ます。 ■授業の進め方 プリントを配布し、指名して読ませ、全員で反復音読し、背景となる 中国の現地事情を解説します。 ■教科書 プリントを作成します。 ■参考書 特にありません。 ■関連科目 特にありません。 ■試験方法 種類： 定期試験（2回），方式： 記述式とヒアリング、スピーキングテスト ■成績評価基準 定期考査成績：1回の定期試験①記述テスト（60点）＝挨拶言葉の翻訳と「発音符号」 の表記力 ②ヒアリング（20点）、スピーキング（20点）＝母音、子音、アクセントの発音力を三段階に分け、できなければ0点、できれば10点、良くできれば20点と評価します。欠席した場合、3回を限度として、一回につき5点を定期試験点より減点します。80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」， 60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」。 最終成績：1回の定期考査とします。 ■授業アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■教員所在場所 本館4階 国際交流部 ■メールアドレス sakai@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 土曜第4限

科目名： 中国語　中級 a		英文名： Chinese（intermediate　class）a	
担当者： 酒井宗和			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 前期
科目種別： 選択	単位数： 0．5		

授　業　計　画	授　業　概　要
第　1週　ガイダンス 第　2週～7週　H22年度初級教材「数字」の未履修部分を終了する。 第　8週　前期中間試験（ヒアリングテストを含む） 第　9週　スピーキングテスト、答案返却・解答 第10週～13週　道を訊く（市内交通）会話 第14週　前期期末試験（ヒアリングテストを含む） 第15週　スピーキングテスト、答案返却・解答	■授業概要 中国での生活、情報の基礎用語である「数字」の修得を終了させます。次いで基本用語として、市内行動に関する用語、会話を学びます。 ■到達目標 1．(E-G2) 中国語の背景となる中国の歴史や文化・自然条件や風俗・習慣、発想・価値観を知り、自国との対比において理解し、自然との調和を考慮した視点で物事を考えるきっかけにすることができるようになります。 2．(E-G2) 人文科学、社会科学、自然科学分野の基礎学力を身に付けます。 初級に引き続き、日常生活で使われる数字の応用表現を学び、発音符号の読解力と高低アクセントのヒアリング力及びスピーキング力の涵養・習熟に注力すると共に、中国式「漢字」を覚える。前期後半では市内行動のための交通や道を尋ねる会話を学びます。 ■授業の進め方 教師の発音を聞いて学生が自ら高低アクセント記号をプリントに書き込み、指名により読んだ後、教師に随て音読を反復して、記憶する。また、関連する習慣などを解説し、中国事情を理解します。 ■教科書　教師がプリントを作成し配布します。 ■参考書　　特にありません。 ■関連科目　特にありません。 ■試験方法 種類：　定期試験（2回）、方式：記述式50点、スピーキング20点、ヒアリング20点。夏季課題20点　（中国の近着新聞コラム記事をコピーして、これに発音記号を付け、日本語訳をつける）を課します。 ■成績評価基準 定期試験及び夏期課題の合計点を2で割ったものを定期考査点とします。欠席した場合、3回を限度として、一回につき5点を定期試験点より減点します。80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」。 ■授業アンケート実施方法　10月にアンケート用紙を配布します。 ■教員所在場所　本館4階　国際交流室　　■メールアドレス　sakai@ktc.ac.jp ■オフィスアワー　土曜第4限

科目名： 中国語　中級　b		英文名： Chinese（intermediate　class）a	
担当者： 酒井宗和			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 後期
科目種別： 選択	単位数： 0．5		

授　業　計　画	授　業　概　要
1週～7週　列車利用時の会話 第　8週　確認試験（ヒアリングテストを含む） 第　9週　スピーキングテスト、答案返却・解答 第10週～13週　買い物会話、外貨交換 第14週　期末試験（ヒアリングテストを含む） 第15週　スピーキングテスト、答案返却・解答	■授業概要　中国での主な交通手段となる列車の利用に関する習慣、用語など及び生活上必要な買い物時の用語を学び中国人の発想や習慣を知ります。 ■到達目標 1．(E-G2) 中国語の背景となる中国の歴史や文化・自然条件や風俗・習慣、発想・価値観を知り、自国との対比において理解し、自然との調和を考慮した視点で物事を考えることができるようになります。 2．(E-G2) 人文科学、社会科学、自然科学分野の基礎学力を身に付けます。 後期では列車利用、買い物時（外貨兌換を含め）の会話を学びます。 ■授業の進め方 プリントを配布し、教師の音読を聞いて、学生が声調記号を記入し、反復音読し、記憶する。背景となる中国の現地事情を解説します。 ■教科書 教師がプリントを作成、配布します。 ■参考書　特にありません ■関連科目　特にありません。 ■試験方法 種類：　定期試験（2回），方式：　記述式，ヒアリング，スピーキングを実施します。 ■成績評価基準 定期考査成績：期末1回の定期試験60点、ヒアリング20点、スピーキング各20点として評価します。 最終成績：定期試験（1回）とします。 欠席した場合、3回を限度として、一回につき5点を定期試験点より減点します。（一回当たり点数は授業回数で30を除したもの）。80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■授業アンケート実施方法　2月にアンケート用紙を配布します。 ■教員所在場所 本館4階　国際交流部 ■メールアドレス　sakai@ktc.ac.jp ■オフィスアワー　土曜第4限

科目名: 中国語 上級 a		英文名: Chinese(upper class)a	
担当者: 酒井宗和			
工学科: 総合システム	学年: 5	コース: 全	開講期: 前期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス 第 2週 電話をかける・アポイントメント 第 3週 電話をかける・アポイントメント 第 4週 電話をかける・アポイントメント 第 5週 電話をかける・アポイントメント 第 6周 電話をかける・アポイントメント 第 7週 電話をかける・アポイントメント 第 8週 中間試験(ヒアリングテストを含む) 第 9週 スピーキングテスト、答案返却・解答 第10週 ホテル投宿時の会話 第12週 ホテル投宿時の会話 第13週 ホテル投宿時の会話 第14週 期末試験(ヒアリングテストを含む) 第15週 スピーキングテスト、答案返却・解答	■授業概要・方法等 中国での生活用語としての電話利用時の会話やアポイントメントの取り方、及び中国に行った時のホテル投宿の会話を学習します。 ■■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)中国語の背景となる中国の歴史や文化・自然条件や風俗・習慣、発想・価値観を知り、自国との対比において理解し、自然との調和を考慮した視点で物事を考える。 2. (E-G2)人文科学、社会科学、自然科学分野の基礎学力を身に付ける。 (中国での生活、仕事上、必要な会話の学習を補強を行う。) ことができるようになります。 ■教科書 プリントを配布します。(漢字の正文に発音のスペリングのみを付け、学生が自ら辞書を引いて、高低アクセントを追加記入する。) 又、夏期課題として、書き言葉を経験し、語彙を増やすため、中国語の直近の新聞の適当なコラム記事をコピーし、これを発音符号に直し、日本語訳を付ける、レポートを提出させます。 ■参考文献 特になし ■関連科目 3学年の一般教養ゼミ「中国語」 ■成績評価方法および基準 種類:定期試験(2回) 方式:記述式60点、スピーキング20点、ヒアリング20点。 定期考査成績:定期試験及び夏季課題の合計を2で割ったものを定期考査点とします。欠席した場合、3回を限度として、一回当たり5点を定期考査点より減点します。 最終成績:定期考査成績の平均点とします。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満 ■教員所在場所 本館4階 国際交流室 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス sakai@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 金曜第8限

科目名: 中国語 上級 b		英文名: Chinese (upper class)b	
担当者: 酒井宗和			
工学科: 総合システム	学年: 5	コース: 全	開講期: 後期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 基本文型(簡単な文法) 第 2週 基本文型(簡単な文法) 第 3週 基本文型(簡単な文法) 第 4週 基本文型(簡単な文法) 第 5週 基本文型(簡単な文法) 第 6周 基本文型(簡単な文法) 第 7週 基本文型(簡単な文法) 第 8週 中間試験(ヒアリングテストを含む) 第 9週 スピーキングテスト、答案返却・解答 第10週 中国語書簡の日本語訳 第11週 中国語書簡の日本語訳 第12週 中国語書簡の日本語訳 第13週 中国語書簡の日本語訳 第14週 期末試験(ヒアリングテストを含む) 第15週 スピーキングテスト、答案返却・解答	■授業概要・方法等 積み上げて来た学習の中間的整理をするため、文法的角度から分類した基本文型の例文を学びます。又、文章語(書き言葉)を体験させます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)中国語の背景となる中国の歴史や文化・自然条件や風俗・習慣、発想・価値観を知り、自国との対比において理解し、自然との調和を考慮した視点で物事を考える。 2. (E-G2)人文科学、社会科学、自然科学分野の基礎学力を身に付ける。 (基本的文法により、文型別に例文を学び、此れまで学んだ会話文を論理付けし、整理して、意識化を目指す。 時間的に余裕が出れば、中国語の簡単な書簡を訳し、口頭語とは違った、文章語に接する経験とする。) ことができるようになります。 ■教科書 基本文型別例文の教材と書簡の実物をコピーし、配布します。 ■参考文献 特に無し。 ■関連科目 3学年の一般教養ゼミ「中国語」 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回) 方式: 記述式、通訳の方式 定期考査成績:定期試験60点、ヒアリング、スピーキング各20点として評価します。 最終成績:定期考査成績の平均点とします。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■教員所在場所 本館4階 国際交流室 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布する。 ■メールアドレス sakai@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 金曜第8限

科目名：ドイツ語Ⅰa		英文名： German Language Ia	
担当者： 石田香織			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 前期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス・発音 第 2週 動詞の現在人称変化 第 3週 主語となる人称代名詞 第 4週 命令形 第 5週 名詞の変化 第 6週 前置詞の格支配 第 7週 接続詞と副文 第 8週 形容詞の格支配 名詞化 第 9週 形容詞の比較 第10週 動詞の3基本形 第11週 過去人称変化 第12週 完了と未来 第13週 完了と未来 第14週 期末試験 第15週 試験返却	■授業概要・方法 第二外国語を学びたい学生ならびに大学編入をめざす学生を対象とします。ドイツ語初級の文法、読本スキルを取得します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって 1.(B-G2)ドイツ語の発音やスペルを身につける。 2.(C-G1)ドイツ語の入門文法や文章を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 Deutsche Grammatik Smart ikubundo ■参考文献 新キャンパス独和辞典 在間 進 3000円＋税 ■関連科目 ドイツ語Ⅱ ■成績評価方法および基準 定期考査成績：定期試験（1回）（100％）で評価します。 最終成績：定期考査成績とします。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス kishida@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 土曜日12:15～13:00 ■教員所在場所 2号館2階 共通教育教員室

科目名：ドイツ語Ⅰb		英文名： German Language Ib	
担当者： 石田香織			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 後期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 話法の助動詞 第 2週 話法の助動詞 第 3週 不定詞・分離動詞 第 4週 不定詞・分離動詞 第 5週 再帰代名詞 再帰動詞 第 6週 再帰代名詞 再帰動詞 第 7週 疑問代名詞 不定代名詞 第 8週 分詞 序数 第 9週 関係代名詞 第10週 指示代名詞 第11週 受動 第12週 受動 第13週 接続法 第14週 期末試験 第15週 試験返却	■授業概要・方法 第二外国語を学びたい学生ならびに大学編入をめざす学生を対象とします。ドイツ語初級の文法、読本スキルを取得します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって 1.(B-G2)基礎ドイツ語な文法をマスターし、読める書ける。 2.(C-G1)ドイツ語圏の文化を、少しでも言語を通じて理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 Deutsche Grammatik Smart ikubundo ■参考文献 新キャンパス独和辞典 在間 進 3000円＋税 ■関連科目 ドイツ語Ⅱ ■成績評価方法および基準 定期考査成績：定期試験（1回）（100％）で評価します。 最終成績：定期考査成績とします。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス kishida@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 土曜日12:15～13:00 ■教員所在場所 2号館2階 共通教育教員室

科目名: ドイツ語Ⅱa		英文名: German Language Ⅱa	
担当者: 石田香織			
工学科: 総合システム	学年: 5	コース: 全	開講期: 前期
科目種別: 選択	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ヨーロッパの中のドイツ 第 2週 ヨーロッパの中のドイツ 第 3週 ドイツの自然・気候 第 4週 ドイツの自然・気候 第 5週 ドイツの日常生活①食事 第 6週 ドイツの日常生活①食事 第 7週 ドイツの日常生活②住居 第 8週 ドイツの日常生活②住居 第 9週 ドイツの日常生活③休暇 第10週 ドイツの日常生活③休暇 第11週 ドイツのビールとワイン 第12週 ドイツのビールとワイン 第13週 ドイツのビールとワイン 第14週 期末試験 第15週 試験返却	■授業概要・方法 ドイツ語Ⅰを修了した学生ならびに大学編入をめざす学生を対象です。読本を通じて文法をさらに深く学習し、ヨーロッパの文化を習慣を理解します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者はこの授業を履修することによって 1.(B-G2)読本を通じて、文法深め、読解力を高める。 2.(C-G1)ドイツ圏の文化、価値観を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 Einladung ikubondo ■参考文献 アクセス独和辞典、三修社 編集責任 在間進 4000円＋税 「Deutsch- information 」 秋田静男その他著 朝日出版社 ￥2,400＋税 (2006) ■関連科目 ドイツ語Ⅰ ■成績評価方法および基準 定期考査成績:定期試験(1回)(100%)で評価します。 最終成績:定期考査の成績とします。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス kishida@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 土曜日12:15～13:00 ■教員所在場所 2号館2階 共通教育教員室

科目名: ドイツ語Ⅱb		英文名: German Language Ⅱb	
担当者: 石田香織			
工学科: 総合システム	学年: 5	コース: 全	開講期: 後期
科目種別: 選択	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ドイツのスポーツ 第 2週 ドイツのスポーツ 第 3週 ドイツの音楽 第 4週 ドイツの音楽 第 5週 ドイツの映画 第 6週 ドイツの映画 第 7週 ドイツの文学 第 8週 ドイツの文学 第 9週 ドイツのクリスマス 第10週 ドイツのクリスマス 第11週 ドイツのクリスマス 第12週 ドイツの環境問題 第13週 ドイツの環境問題 第14週 期末試験 第15週 試験返却	■授業概要・方法 ドイツⅠを修了した学生ならびに大学編入をめざす学生を対象です。読本を通じて文法をさらに深く学習し、応用問題に取り組みます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者はこの授業を履修することによって 1.(B-G2)実践的な問題に対し、習得したドイツ語で専門分野の知識を問題解決に応用できる能力を身につける。 2.(C-G1)ドイツ圏の文化、価値観を理解し、会話・プレゼンテーションを図る。 ことができるようになります。 ■教科書 Einladung ikubondo ■参考文献 アクセス独和辞典、三修社 編集責任 在間進 4000円＋税 「Deutsch- information 」 秋田静男その他著 朝日出版社 ￥2,400＋税 (2006) ■関連科目 ドイツ語Ⅰ ■成績評価方法および基準 定期考査成績:定期試験(1回)(100%)で評価します。 最終成績:定期考査の成績とします。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス kishida@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 土曜日12:15～13:00 ■教員所在場所 2号館2階 共通教育教員室

科目名： 技術と倫理a		英文名：Engineer Ethics a	
担当者： 嶋野彰夫　山本広樹			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 前期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授　業　計　画

第1週　ガイダンス、技術者倫理とは？、技術者にとっての法律
第2週　産業財産権、倫理綱領、技術者の義務と責任
第3週　倫理的問題解決方法
第4週　事例紹介：シティ・コープタワーの危機
第5週　事例紹介：シティ・コープタワーの危機
第6週　事例紹介：スペースシャトル・チャレンジャー号事故
第7週　事例紹介：スペースシャトル・チャレンジャー号事故
第8週　日本機械学会の倫理規定について
第9週　法科学と法工学の紹介
第10週　事例紹介：機械事故の解析
第11週　事例紹介：自動車の欠陥問題
第12週　演習：事例調査
第13週　討論会
第14週　課題レポート作成
第15週　まとめ

授　業　概　要

■授業概要・方法等
近年の度重なる重大事故や企業の不祥事など技術者の倫理観に関わる諸問題について、自分自身の問題として考えさせます。科学技術が人類の発展にとって重要なものになり、それを担う技術者の行動が社会におよぼす影響の重大さを認識させます。倫理的問題に直面したときに技術者として正しく行動できる能力を養成します。
■到達目標
受講者はこの授業を履修することによって、
1. (C-G2)人間社会と科学の関係、技術者としての責任について正しく理解する。
2. (D-G2)技術者の行動指針を立てそれを遵守する心を持つ。
3. (C-G3)企業の一員として必要とされる法律的知識を新たに習得する。
ことができるようになります。
■教科書
使用しない。適宜プリントを配布します。
■参考文献
「技術者倫理」札野順著　放送大学教育振興会、「技術者倫理の世界」藤本温編集　森北出版、「土木技術者倫理問題」土木学会、「オムニバス技術者倫理」北海道技術者倫理研究会編　共立出版
■関連科目
なし
■成績評価方法および基準
筆記試験は行いません。
最終成績：各教員がレポート100%で評価し、2教員の平均とします。
80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」
■教員所在場所
嶋野彰夫：本館2F教務部　山本広樹：本館2F教務部
■授業アンケート実施方法
10月にアンケート用紙を配布します。
■メールアドレス　shimano@ktc.ac.jp、yamamoto@ktc.ac.jp
■オフィスアワー
嶋野：木曜日と金曜日12:15～13:00、山本：木曜第9限

科目名： 技術と倫理b		英文名：Engineer Ethics b	
担当者： 大島茂　田口善文			
工学科： 総合システム	学年： 5	コース： 全	開講期： 後期
科目種別： 選択	単位数： 1		

授　業　計　画

第1週　電気学会、情報処理学会の倫理綱領について
第2週　電子情報通信学会倫理綱領について
第3週　事例紹介
第4週　事例研究：原子力発電所の事故
～
第6週　レポートの作成及び発表準備
第7週　事例研究の発表および議論
第8週　土木学会倫理規定、技術士倫理要綱について
第9週　事例研究：市の下水処理と民間工場排水
第10週　事例研究：六本木ヒルズ回転ドア事故
第11週　事例研究の発表および議論
第12週　事例研究の発表および議論
第13週　土木学会;もう1つのPDCAの紹介
第14週　事例研究：道路整備事業と不法投棄物
第15週　まとめ

授　業　概　要

■授業概要・方法等
近年の度重なる重大事故や企業の不祥事など技術者の倫理観に関わる諸問題について、自分自身の問題として考えさせます。科学技術が人類の発展にとって重要なものになり、それを担う技術者の行動が社会におよぼす影響の重大さを認識させます。倫理的問題に直面したときに技術者として正しく行動できる能力を養成します。
■到達目標
受講者はこの授業を履修することによって、
1. (C-G2)人間社会と科学の関係、技術者としての責任について正しく理解する。
2. (D-G2)技術者の行動指針を立てそれを遵守する心を持つ。
3. (C-G3)企業の一員として必要とされる法律的知識を新たに習得する。
ことができるようになります。
■教科書
使用しない。適宜プリントを配布します。
■参考文献
「技術者倫理」札野順著　放送大学教育振興会、「技術者倫理の世界」藤本温編集　森北出版、「土木技術者倫理問題」土木学会、「オムニバス技術者倫理」北海道技術者倫理研究会編　共立出版
■関連科目
なし
■成績評価方法および基準
筆記試験は行いません。
最終成績：各教員がレポート100%で評価し、2教員の平均とします。
80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」
■教員所在場所
大島茂：本館1F進路指導室　田口善文：4号館2F 都市環境系教員室
■授業アンケート実施方法
2月アンケート用紙を配布します。
■メールアドレス　ooshima@ktc.ac.jp、taguchi@ktc.ac.jp
■オフィスアワー
大島：月曜日と木曜日の9限、田口：火曜日と木曜日の8限